

第十一部 イスラエルの贖いと回復

イザヤ 40 章～66 章

□ 第十一部のアウトライン

- | | |
|------------------------|----------------|
| A) プロローグ | 40 章 1～11 節 |
| B) イスラエルの苦難は終わる | 40 章 12 節～48 章 |
| C) イスラエルの罪は償われている | 49 章～57 章 |
| D) イスラエルは二倍のものを受けている | 58 章～66 章 |

□ 「B) イスラエルの苦難は終わる」のアウトライン (イザヤ 40 章 12 節～48 章)

1. 主の偉大なること、比べるものなし (40 章 12 節～31 節)
2. 偶像を裁く (41 章)
3. 主のしもべ (42 章)
4. バビロンからの解放 (43 章 1 節～44 章 5 節)
5. 偶像崇拜の愚かさ (44 章 6 節～23 節)
6. バビロン捕囚からキュロス王による解放 (44 章 24 節～45 章 25 節)
7. バビロンとその偶像たちに対するさばき (46 章 1 節～47 章 15 節)
8. 預言を受けるイスラエル民族への主の要求 (48 章)

□ 「7. バビロンとその偶像たちに対するさばき」のアウトライン (イザヤ 46・47 章)

- a. バビロンの偶像は倒れる (46 章)
- b. バビロンが倒れる (47 章)

□ 「8. 預言を受けるイスラエル民族への主の要求」のアウトライン (イザヤ 48 章)

- a. バビロン捕囚の預言が成就する時代のイスラエル民族へのメッセージ (1～8 節)
- b. 神に反抗するイスラエルへのさばきがある程度でとどめられる理由 (9～11 節)
- c. 第二位格の神がすべてを支配しておられる (12～16 節)
- d. もしイスラエルが神に従っていたらどうなっていたか (17～19 節)
- e. バビロン捕囚から解放されるとなったら、バビロンから離れて帰還せよ (20～21 節)
- f. B 区分の結びのことば (22 節)

7. バビロンとその偶像たちに対するさばき

a. バビロンの偶像は倒れる (46 章)

1～2 節 「ベルはひざまずき、ネボはかがむ。彼らの像は獣と家畜に載せられる。あなたがたの荷物は、疲れた動物の重荷となって運ばれる。彼らはともにかがみ、ひざまずく。重荷を解くこともできず、自分自身も捕らわれの身となって行く。

- ベルとネボ・・・バビロンの偶像群の代表格。ベルは、ベル・マルドゥク（「主」の意味）で、聖書によくでてくる偶像の神「バアル」と語源は同じ。ネボは、ベルの息子の位置付け。ギリシア神殿ではゼウスとヘルメス、ローマ神殿ではジュピター（ユピテル）とマーキュリー（メルクリウス）へとつながる。

3～4 節 ヤコブの家よ、わたしに聞け。イスラエルの家のすべての残りの者よ。胎内にいたときから担がれ、生まれる前から運ばれた者よ。あなたがたが年をとっても、わたしは同じようにする。あなたがたが白髪になっても、わたしは背負う。わたしはそうしてきたのだ。わたしは運ぶ。背負って救い出す。

5～7 節 わたしをだれになぞらえて比べ、わたしをだれと並べて、なぞらえるのか。袋から金を惜しげなく出し、銀を天秤で量る者たちは、金細工人を雇って、それで神を造り、ひざまずいては、これを拝む。彼らはこれを肩に担いで運び、それがあつたところに安置すると、それはそこに立ったままである。これはその場所から動かない。これに叫んでも答えず、苦しみから救ってもくれない。

8～13 節 このことを思い出し、勇み立て。背く者たちよ、心に思い返せ。遠い大昔のことを思い出せ。わたしが神である。ほかにはいない。わたしのような神はいない。わたしは後のことを初めから告げ、まだなされていないことを昔から告げ、『わたしの計画は成就し、わたしの望むことをすべて成し遂げる』と言う。

わたしは東から猛禽を、遠い地から、わたしの計画を行う者を呼ぶ。わたしは語って、それを来たらせ、計画を立てて、それを実行する。

わたしに聞け、頑なな者たちよ。正義から遠く離れている者たちよ。わたしは、わたしの義を近づける。それは遠くない。わたしの救いが遅れることはない。わたしはシオンに救いを、イスラエルにわたしの栄えを与える。」

- 背く者たち、頑なな者たち、正義から遠く離れている者たち・・・イスラエルの民
- 猛禽、わたしの計画を行う者・・・ペルシアの王キュロス

b. バビロンが倒れる (47 章)

1～4 節 「おとめ、娘バビロンよ。下って行って、土の上に座れ。娘カルデア人たちよ。王座のない地面に座れ。あなたはもう、優しい上品な女と呼ばれることはないからだ。ひき臼を取って粉をひけ。ベールを取り去り、裾をまくってすねを出し、川を渡れ。あなたの裸はあらわにされ、恥もさらされる。わたしは復讐をする。だれ一人容赦しない。」

私たちを贖う方、その名は万軍の主、イスラエルの聖なる方。

- おとめ、娘バビロン・・・バビロニア帝国の都バビロン。その地域全体は「カルデア」、その地域に住む人々は「カルデア人」と呼ばれた。

5～7 節 「娘カルデア人たちよ。黙って座り、闇に入れ。あなたはもう、国々の女王と呼ばれることはないからだ。わたしは、わたしの民を怒って、わたしのゆずりの民を汚し、彼らをあなたの手に渡したが、あなたは彼らをあわれまず、老人にも、ひどく重いくびきを負わせた。あなたは「いつまでも女王でいよう」と考えて、これらのことを心に留めず、自分の終わりのことを思うことさえしなかった。

8～9 節 「だから今、これを聞け。楽しみにふけり、安心して住む女よ。心の中で、『私だけは特別だ。私はやもめにならないし、子を失うことも知らなくてすむ』と言う者よ。子を失うことと、やもめになること、この二つが一日のうちに、瞬く間にあなたのところにやって来る。あなたがどんなに多く呪術を行っても、どんなに呪文の力が強くても、これらは突然あなたを見舞う。

- 一日のうちに・・・バビロンは文字通り一日でメディア・ペルシアの連合軍に占領されることになる (ダニ 5:30～31)。占領軍の指揮をとったのは、ペルシアのキュロス、新政権の暫定的な王に着いたのはメディアのダレイオス 62 歳 (ダニ 5:31、6:28)

10～12 節 あなたは自分の悪に抛り頼み、『私を見ている者はいない』と言う。あなたの知恵と知識、これがあなたを迷わせた。だから、あなたは心の中で言う。『私だけは特別だ。』しかし、わざわざがあなたを見舞う。それを払いのける呪文をあなたは知らない。災難があなたを襲うが、あなたはそれを避けることができない。破壊は知らないうちに、突然あなたにやって来る。さあ、若いときからの使い古しの呪文や多くの呪術を使って立ち上がれ。あるいは役立つかもしれない。脅かすことができるかもしれない。

- あるいは役立つかもしれない、脅かすことができるかもしれない・・・バビロンの知恵や呪文も役立たず、敵を脅かすことはできないという意味。

13～15 節 助言する者が多すぎて、あなたは疲れている。さあ、天を観測する者、星を見る者、あなたに起こることを新月ごとに知らせる者を立たせて、あなたを救わせてみよ。

見よ。彼らは刈り株のようになり、火が彼らを焼き尽くす。彼らは自分のいのちを炎の手から救い出すこともできない。これは身を暖める炭火でもなく、その前に座れる火でもない。あなたが若いときから仕え、取り引きしてきた者たちは、このようになる。

彼らはそれぞれ自分勝手に迷い出る。あなたを救う者は一人もいない。」

8. 預言を受けるイスラエル民族への主の要求 (48 章)

a. バビロン捕囚の預言が成就する時代のイスラエル民族へのメッセージ (1～8 節)

1～2 節 これを聞け、ヤコブの家よ。あなたはイスラエルの名で呼ばれ、ユダの源から出て、主の御名によって誓い、イスラエルの神を呼び求めるが、真実をもってせず、また正義をもってもしない。実に彼らは聖なる都の出だと自称し、その名が万軍の主であるイスラエルの神に寄りかかっている。

- イスラエルの神に寄りかかっている・・・直訳は「イスラエルの神に拠り頼んでいる」。しかし、それは見せかけだけである。

3 節 「かつて起こったことは、前からわたしが告げていた。それらはわたしの口から出て、わたしはそれらを聞かせた。にわかに、わたしは行い、それは成就した。

4～6 節 a あなたが頑なであり、首筋は鉄の腱、額は青銅だと知っているの、わたしは、かねてからあなたに告げ、まだ起こらないうちに聞かせたのだ。『私の偶像がこれをした』とか、『私の彫像や鑄た像がこれを命じた』とか、あなたが言わないようにするためだ。あなたは聞いた。さあ、これらすべてを見よ。あなたがたは告げ知らせないのか。

6b～8 節 わたしは今から、新しいことを、あなたの知らない秘め事をあなたに聞かせる。それは今、創造された。ずっと前からではない。今日まで、あなたはこれを聞いたこともない。『ああ、私は知っていた』と あなたが言わないようにするためだ。あなたは聞いたこともなく、知っていたこともない。ずっと前から、あなたの耳は開かれていなかった。わたしは、あなたが必ず裏切ることを、母の胎内にいるときから 背く者と呼ばれていたことを知っていたからだ。

- b. 神に反抗するイスラエルへのさばきがある程度でとどめられる理由（9～11 節）

9～11 節 わたしの名のために怒りを遅らせ、わたしの榮譽のためにそれを抑えて、わたしはあなたを絶ち滅ぼさなかった。見よ。わたしはあなたを練ったが、銀のようにではない。わたしは苦しみの炉であなたを試した。わたしのため、わたしのために、わたしはこれを行う。どうしてわたしの名が汚されてよかろうか。私の栄光を、ほかの者に与えはしない。

- c. 第二位格の神がすべてを支配しておられる（12～16 節）

12 節から 16 節で語る「わたし」は、16 節では「神である主」によって聖霊とともに遣わされたとある。よって、「わたし」とは、第二位格の子なる神、受肉前のイエスである。このお方が、永遠なる神であり、父なる神とともに天地創造にも関与し、バビロン捕囚からの解放にも関与することが明らかとなる。

12～13 節 わたしに聞け、ヤコブよ。わたしが呼び出したイスラエルよ。わたしがそれだ。わたしが初めであり、また終わりである。まことに、わたしの手が地の基を定め、わたしの右の手が天を延べ広げた。わたしが呼びかけると、それらはこぞって立ち上がる。

- わたしが初めであり、また終わりである・・・黙示録 1:17～18 では、イエスがこう言われる。「わたしは初めであり、終わりであり、生きている者である。私は死んだが、見よ、世々限りなく生きている。また、死とよみの鍵を持っている。」

14～15 節 みな集まって聞け。彼らのうち、だれがこれらのことを告げたのか。主に愛される者が、主の喜ばれることをバビロンに行く。主の御腕はカルデア人に向かう。わたしが、このわたしが語り、彼を呼んだのだ。わたしは彼を来させ、彼の行うことを成功させる。

- 主に愛される者・・・主に選ばれた者、ペルシアの王キュロス。40 章から 47 章で語られてきたバビロン捕囚からの解放に関する預言のまとめ

16 節 わたしに近づいて、これを聞け。わたしは初めから、隠れたところでは語らなかった。それが起こったときから、わたしはそこにいた。」

今、神である主は、私をその御霊とともに遣わされた。

- ここには、三位一体の神が登場する。「神である主」＝父なる神、「その御霊（その方の御霊 his Spirit）」＝聖霊。12 節からずっと語っておられる

「わたし」、そして 16 節の最後の「私」、これらはすべて、第二位格の子なる神、受肉前のイエスである。

d. もしイスラエルが神に従っていたらどうなっていたか (17～19 節)

17 節 イスラエルの聖なる方、あなたを贖う主はこう言われる。

「わたしはあなたの神、主である。わたしはあなたに益になることを教え、あなたの歩むべき道にあなたを導く。

18～19 節 あなたがわたしの命令に耳を傾けてさえいれば、あなたの平安は川のように、正義は海の波のようになったであろうに。あなたの子孫は砂のように、あなたの身から出る者は真砂のようになったであろうに。その名はわたしの前から断たれることも、滅ぼされることもなかったであろうに。

- 平安、正義・・・外面的には「平和」、内面的には「義」
- その名はわたしの前から断たれる、滅ぼされる・・・バビロン捕囚を指す

e. バビロン捕囚から解放されるとなったら、バビロンから離れて帰還せよ (20～21 節)

20～21 節 バビロンから出よ。カルデアから逃れよ。喜びの声をあげて、これを告げ、聞かせよ。地の果てにまで響き渡らせよ。「主が、そのしもべヤコブを贖われた」と言え。主が荒れ果てた地を通らされたときも、彼らは渴くことがなかった。主は彼らのために岩から水を流れ出させ、岩を裂いて水をほとばしり出させられた。

- バビロン捕囚からの帰還の記事は、エズラ記。その中に、帰還に際して超自然的に水が供給されたという記録はないが、エズラ記は神殿再建に焦点をあてた記録である。他の預言がすべて成就したことを見れば、帰還民のために神が水を実際に供給したと考えられる。

f. B 区分の結びのことば (22 節)

22 節 「悪しき者には平安がない。」主はそう言われる。

- B、C、D の三つの区分のすべてが、同様の結びのことばを繰り返す。
C の結びも、「悪しき者には平安がない」(57 : 21)
D の結びは、「彼らは出て行って、わたしに背いた者たちの屍を見る。そのうじ虫は死なず、その火も消えず、それはすべての肉なる者の嫌惡の的となる。」(66 : 24)